

# 今日からはじめよう！個人でできる適応の取り組みの一例



## ① 熱中症を予防しよう！

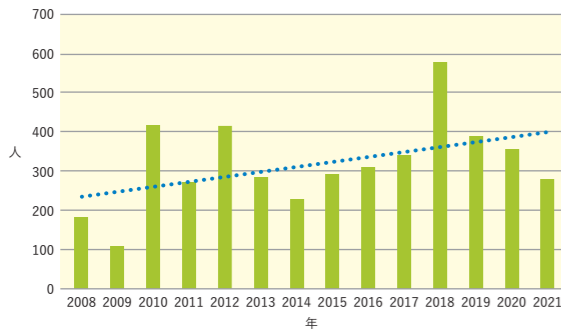
地球温暖化が進み、気温が上がることで、熱中症になる可能性が増え、これまで以上に熱中症に気をつける必要があると考えられています。暑い日は、こまめに水分補給をしたり、外に出るときは、帽子をかぶったりして、熱中症予防しましょう。

### 熱中症の主な症状

- めまいやほてり
- 筋肉痛・筋肉のけいれん
- 頭痛、体のだるさや吐き気
- 汗がとまらない
- 体温が高い、皮ふの異常



島根県における7月～9月の熱中症搬送者数



島根県の熱中症救急搬送人員数は増加傾向になります。なお、2021年の熱中症搬送者は、満65歳以上の高齢者が約61%と多く占め、発生場所は住居が約45%を占めています。※消防庁ホームページのデータを用いて作成

## ② 自然災害にそなえよう！

雨が降る日が少なくなる可能性がある一方で、一度に降る雨の量が極端に多くなったり、大型の台風が来る可能性があります。災害にそなえるために、避難場所や避難経路を調べておくことも大切です。



## ③ 虫刺されに気をつけよう！

気温が上がることによって、寒い地域に住めなかった虫が、北上する可能性があります。例えば、デング熱という病気を広める蚊の住める地域が北に広がっていますので注意しましょう。



### デング熱について

ヒトスジシマカという蚊が運ぶウイルスが原因となる病気です。2014年、代々木公園などで感染したと考えられる患者が発生しニュースになりました。温暖化が進むことによって、将来的に流行することが心配されています。

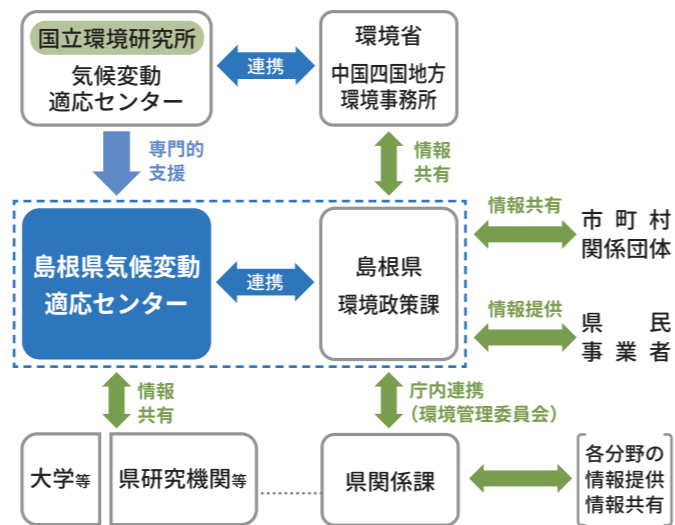
## 03 センターについて

島根県は2021年4月に島根県気候変動適応センターを設置しました。

### 〈主な活動〉

島根県気候変動適応センターでは、国立環境研究所及び同所内の「気候変動適応センター（CCCA）」をはじめ、県内外の気候変動に関する調査研究を行う機関との連携を通じて以下の業務を実施します。

- 気候変動影響及び適応に関する情報の収集、整理及び提供
- 事業者や県民等からの気候変動適応に関連する相談への対応及び情報発信
- 気候変動影響及び適応に関する調査、研究



## 島根県気候変動適応センター（島根県保健環境科学研究所内）

〒690-0122 松江市西浜佐陀町582-1  
TEL.0852-36-8181 FAX.0852-36-8171 E-mail: hokanken@pref.shimane.lg.jp  
https://www.pref.shimane.lg.jp/infra/kankyo/kankyo/chosa/tekiou\_center/



# 島根県気候変動適応センター

Local Climate Change Adaptation Center in Shimane

県内の気象データや影響情報など気候変動への適応に役立つ情報を、関係機関と連携して提供しています。

## 温暖化対策には「緩和」と「適応」の取り組みが必要です！

私たちは日々の暮らしの中で温室効果ガスを大量に排出しており、そのことによって地球の平均気温は上昇を続けています。こうした地球温暖化やそれに伴う気候変動が、私たちの生活に大きな影響を及ぼすことが懸念されています。そこで「緩和」と「適応」、2つの温暖化対策への取り組みが必要となります。

### 緩和

人間社会や自然の生態系が危機に陥らないためには、実効性の高い温室効果ガス排出削減の取り組みを行っていく必要があります。温室効果ガスの排出抑制に向けた努力が緩和です。



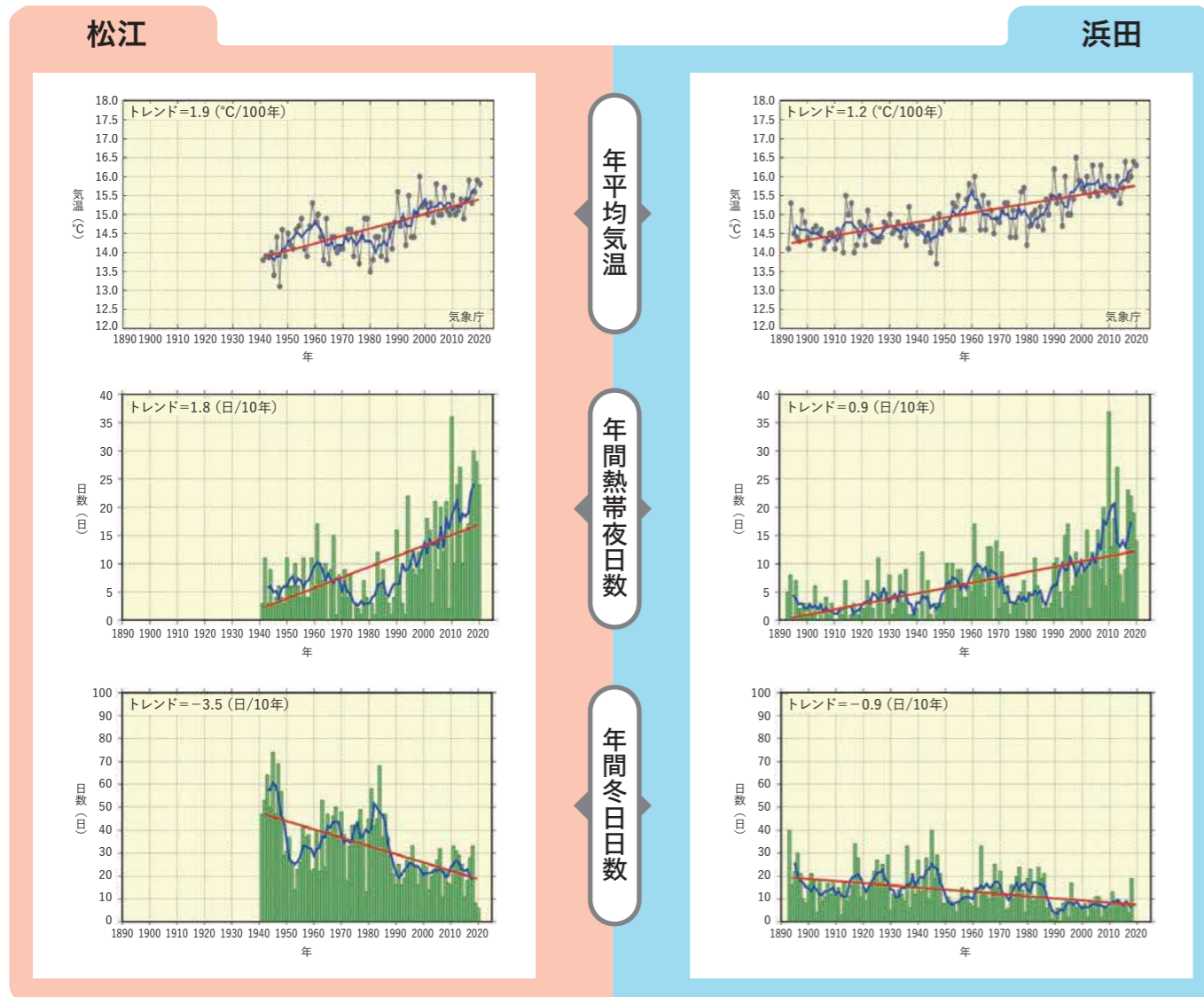
### 適応

緩和を実施しても温暖化の影響が避けられない場合、その影響に対して自然や人間社会のあり方を調整していくことが、適応です。

現在

島根県では、松江、浜田の年平均気温は、数年～数十年の様々な周期の変動を繰り返しながら上昇しています。また、熱帯夜（最低気温25℃以上）日数の増加や、冬日（最低気温0℃未満）日数の減少がみられます。

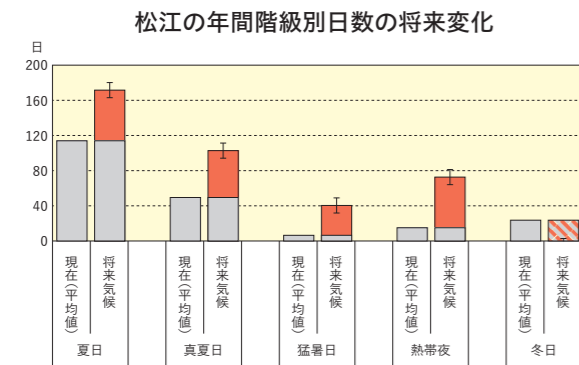
島根県では、現在や将来の気候変動による影響に対し、以下のように分野ごとの適応策を進めています。



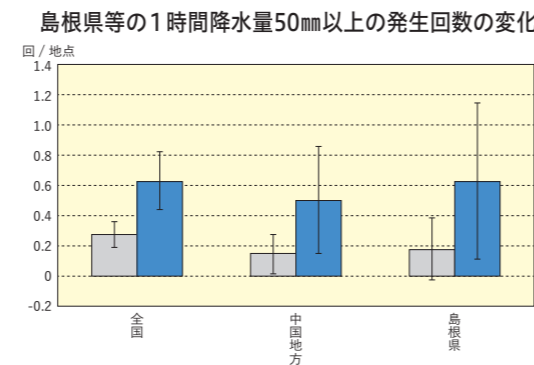
資料/松江地方気象台ホームページ「島根県の気候変化」 ※青い折れ線は5年移動平均値、赤い直線は長期的な変化傾向を示す。

将来

21世紀末における松江では、20世紀末と比較して年間で猛暑日（最高気温35℃以上）が35日程度、真夏日（最高気温30℃以上）や熱帯夜が50日程度増加するとともに、冬日が30日程度減少すると予測されています。降水量については、1時間降水量50mm以上の大雨の発生頻度が3倍以上に増加すると予想されています。



※赤い棒は将来気候と現在気候の差（塗りつぶしが増加、斜線が減少）、灰色の棒は平均値、黒細線は将来気候の年々変動の標準偏差を示す。



※青色の棒は将来気候、灰色の棒は現在気候の平均発生回数、黒細線は年々変動の標準偏差を示す。

資料/松江地方気象台ホームページ「島根県の気候変化」(RCP8.5シナリオの場合)

主な影響（将来予測されるものを含む）

適 応 策

<p><b>農林水産業</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コメの品質の低下（白未熟粒の発生、一等米比率の低下等）</li> <li>● 露地野菜の活着不良</li> <li>● 高齢林化が進むスギ・ヒノキ人工林での風害の増加懸念</li> <li>● スルメイカなどの回遊性魚介類の分布変化（回遊経路、来遊量など）</li> <li>● 高水温によるワカメ養殖の収穫時期の短縮や魚類の食害増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高温耐性品種の導入・普及</li> <li>● 排水対策、簡易灌水対策の推進</li> <li>● 主伐・再造林や間伐等の推進</li> <li>● モニタリングによる漁獲状況・資源動向の変化の把握</li> <li>● 高水温に対応した種苗生産、養殖技術の開発</li> </ul>
<p><b>水環境・水資源</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 湖沼・ダム湖の溶存酸素量の低下や水質の変化懸念</li> <li>● 渇水による用水等への影響</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● モニタリングによる公共用水域の水質状況の把握</li> <li>● 渇水時対策の推進</li> </ul>
<p><b>自然生態系</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中国山地におけるニホンジカの恒常的分布域の増加懸念</li> <li>● 野生動植物の分布域の変化</li> <li>● 外来生物の分布拡大や定着の懸念</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ニホンジカによる食害・剥皮被害状況の把握、個体数および生息地管理</li> <li>● 野生動植物の生息・生育の実態把握</li> <li>● 外来生物の基礎的な調査、情報収集、被害拡大防止</li> </ul>
<p><b>自然災害</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 豪雨による土石流やがけ崩れなどの土砂災害の増加</li> <li>● 洪水を起こしうる大雨事象の増加懸念</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 減災・防災対策（ハード対策及びソフト対策）の推進</li> <li>● 浸水被害が予想される区域の調査、洪水浸水想定区域図の作成（市町村ハザードマップへの利活用）</li> </ul>
<p><b>健康</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 熱中症患者数の増加（救急搬送数、医療機関受診者数、熱中症死者数）</li> <li>● 病気を媒介する蚊の生息域拡大などによる感染症リスクの増加懸念</li> <li>● オキシダント濃度の上昇による健康被害の増加懸念</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 熱中症予防、対処法の普及啓発</li> <li>● デング熱等の感染症についての注意喚起と予防策の啓発、気温上昇に伴う感染症リスクの変化についての情報収集など</li> <li>● 大気汚染の状況のモニタリングおよび注意喚起</li> </ul>
<p><b>経済活動・県民生活</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 風水害による事業活動への影響懸念</li> <li>● ライフラインへの影響（停電、浸水等）</li> <li>● 熱帯夜日数の増加など、生活への影響</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業者における事業継続計画（BCP）の策定のための普及啓発・情報提供等</li> <li>● 再生可能エネルギー設備や蓄電設備の導入促進による地域防災力の強化（供給源の多様化、非常時のエネルギー確保等）</li> <li>● 断熱住宅の普及促進、ライフスタイル見直しの呼び掛けなど</li> </ul>

※気候変動の影響予測（国等の予測に基づいて記載）については不確実性が大きいため、今後も最新の科学的知見の収集にあわせ、県内の現象を継続して把握していきます。※現在の県の取り組みの中から、適応策として機能しているものを記載しています。適応策は最新の影響予測等をもとに柔軟に見直ししていきます。